

# 特許公報を読んでスピーカーを作ろう

※本資料の作成者は弁理士／弁護士ではない。

そのため、本資料は参考情報に留め理解すること。

本資料により被害を受けた場合であっても、

本資料の作成者は引責するものではない。

2021年10月30日

スピーカー再生技術研究会 高橋

# 特許／実用新案とは

## 特許・実用新案とは

人類の技術レベルアップしたいので、技術公開して共有化して欲しい。  
公開してくれたお礼に、一定期間独占権（≡排他権）あげます。

## 特許・実用新案制度

特許法第1条には、「この法律は、発明の保護及び利用を図ることにより、発明を奨励し、もつて産業の発達に寄与することを目的とする」とあります。発明や考案は、目に見えない思想、アイデアなので、家や車のような有体物のように、目に見える形でだれかがそれを占有し、支配できるというものではありません。したがって、制度により適切に保護がなされなければ、発明者は、自分の発明を他人に盗まれないように、秘密にしておこうとするでしょう。しかしそれでは、発明者自身もそれを有効に利用することができないばかりでなく、他の人が同じものを発明しようとして無駄な研究、投資をすることとなってしまいます。そこで、特許制度は、こういったことが起こらぬよう、発明者には一定期間、一定の条件のもとに特許権という独占的な権利を与えて発明の保護を図る一方、その発明を公開して利用を図ることにより新しい技術を人類共通の財産としていくことを定めて、これにより技術の進歩を促進し、産業の発達に寄与しようというものです。

# 特許／実用新案とは

## （特許権の効力）

**第六十八条** 特許権者は、業として特許発明の実施をする権利を専有する。ただし、その特許権について専用実施権を設定したときは、専用実施権者がその特許発明の実施をする権利を専有する範囲については、この限りでない。

## 第二節 権利侵害

### （差止請求権）

**第百条** 特許権者又は専用実施権者は、自己の特許権又は専用実施権を侵害する者又は侵害するおそれがある者に対し、その侵害の停止又は予防を請求することができる。

- 2 特許権者又は専用実施権者は、前項の規定による請求をするに際し、侵害の行為を組成した物（物を生産する方法の特許発明にあつては、侵害の行為により生じた物を含む。第百二条第一項において同じ。）の廃棄、侵害の行為に供した設備の除却その他の侵害の予防に必要な行為を請求することができる。

### （侵害とみなす行為）

**第百一条** 次に掲げる行為は、当該特許権又は専用実施権を侵害するものとみなす。

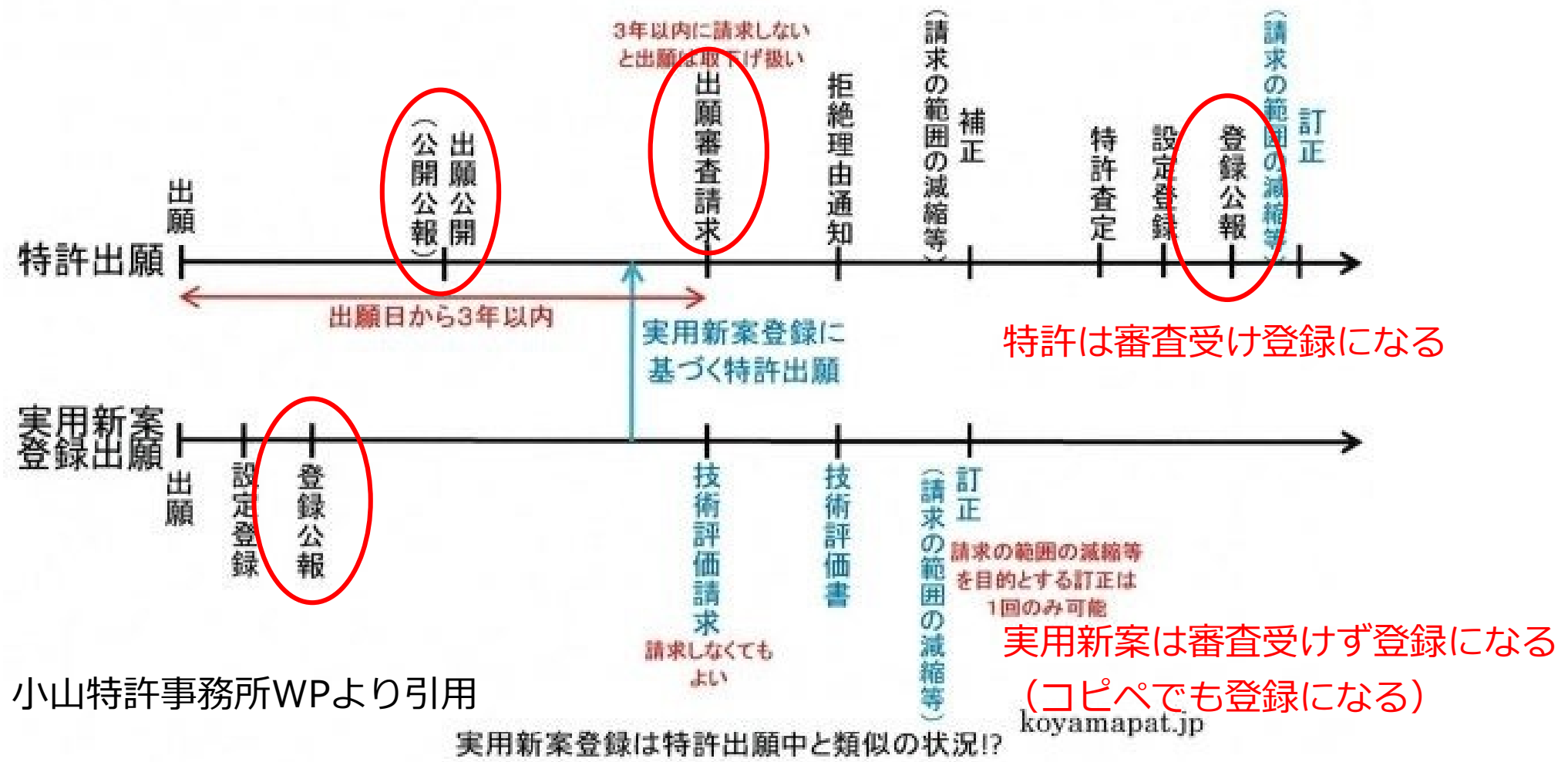
- 一 特許が物の発明についてされている場合において、業として、その物の生産にのみ用いる物の生産、譲渡等若しくは輸入又は譲渡等の申出をする行為
- 二 特許が物の発明についてされている場合において、その物の生産に用いる物（日本国内において広く一般に流通しているものを除く。）であつてその発明による課題の解決に不可欠なものにつき、その発明が特許発明であること及びその物がその発明の実施に用いられることを知りながら、業として、その生産、譲渡等若しくは輸入又は譲渡等の申出をする行為
- 三 特許が物の発明についてされている場合において、その物を業としての譲渡等又は輸出のために所持する行為
- 四 特許が方法の発明についてされている場合において、業として、その方法の使用にのみ用いる物の生産、譲渡等若しくは輸入又は譲渡等の申出をする行為
- 五 特許が方法の発明についてされている場合において、その方法の使用に用いる物（日本国内において広く一般に流通しているものを除く。）であつてその発明による課題の解決に不可欠なものにつき、その発明が特許発明であること及びその物がその発明の実施に用いられることを知りながら、業として、その生産、譲渡等若しくは輸入又は譲渡等の申出をする行為
- 六 特許が物を生産する方法の発明についてされている場合において、その方法により生産した物を業としての譲渡等又は輸出のために所持する行為

特許権では、業として行う物／行為の侵害を防止。

「業として」の明確な定義は無いが、  
学説では、以下行為は対象外と考えられている。

- ・ 個人的目的（趣味）で実施
- ・ 研究開発において、従来技術評価のため実施

特許／実用新案とは



## 特許公報を読もう

J-PlatPat

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/><https://www.j-platpat.inpit.go.jp>ヘルプデスク  
(平日9:00-21:00)03-3588-2751  
✉ [helpdesk@j-platpat.inpit.go.jp](mailto:helpdesk@j-platpat.inpit.go.jp)[English](#)[サイトマップ](#)[ヘルプ一覧](#)独立行政法人  
工業所有権情報・研修館

特許・実用新案

意匠

商標

審判

特許・実用新案番号照会/OPD

特許・実用新案検索

特許・実用新案分類照会(PMGS)

←①番号から特許公報入手

←②出願人や発明者など検索し、特許公報入手

←③特許分類の確認

閉じる

2021/09/21 2021年10月15日(金)20:00~2021年10月18日(月)07:00 OPDサービスを停止します。

更新履歴

簡易検索

ヘルプ

特許・実用新案、意匠、商標について、キーワードや番号を入力してください。検索対象は [こちら](#) をご覧ください。  
 分類・日付等での詳細な検索をされる場合は、メニューから各検索サービスをご利用ください。

☒ 四法全て
 ☐ 特許・実用新案
 ☐ 意匠
 ☐ 商標
☒ 自動絞り込み

例1)人工知能 例2)2019-00012X

検索

# 特許公報を読もう① 公報番号から特許公報入手



## MIRAI SPEAKER

【ミライスピーカー®】

日本特許第 5668233 号及び  
世界特許優先権を取得

🔍 特許・実用新案番号照会／OPD

ヘルプ

文献を選択した場合、特許・実用新案、外国文献、非特許文献(公開技報)の各種公報を照会できます。  
OPD照会を選択した場合、世界各国の特許庁が保有する出願・審査関連情報(ドシエ情報)を照会できます。  
照会は、発行国・地域/発行機関、種別を選択し、番号を入力してください。

検索対象

☒ 文献 ☐ OPD照会

入力種別

- ☒ 番号入力 入力した番号単独で検索します。番号を複数入力する場合は、それぞれをスペースで区切り入力してください。
- ☐ 番号範囲入力 指定した番号の範囲で検索します。
- ☐ DOCDB形式入力 入力した番号単独で検索します。国・地域コードを、番号に含めて入力してください。 ?

発行国・地域/発行機関

日本(JP)

番号種別

特許番号(B)・特許発明明細書…

番号

5668233

✕ 削除

日本(JP)

公開番号・公表番号(A)

例) 2019-00012X 2019-12X H31-00012X

✕ 削除

日本(JP)

公告番号(B)

例) 2019-00012X 2019-12X H31-00012X

✕ 削除

日本(JP)

特許番号(B)・特許発明明細書…

例) 123456X 12345X

✕ 削除 + 追加

🔍 照会

クリア



(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B1)

(11) 特許番号  
特許第5668233号  
(P5668233)

(45) 発行日 平成27年2月12日 (2015. 2. 12)

(24) 登録日 平成26年12月26日 (2014. 12. 26)

(51) Int. Cl.	F 1
H 0 4 R 7/12 (2006. 01)	H 0 4 R 7/12 Z
H 0 4 R 9/06 (2006. 01)	H 0 4 R 9/06 Z
H 0 4 R 17/00 (2006. 01)	H 0 4 R 17/00

(21) 出願番号 特願2014-83167 (P2014-83167)

(22) 出願日 平成26年3月26日 (2014. 3. 26)

審査請求日 平成26年4月9日 (2014. 4. 9)

早期審査対象出願

(73) 特許権者 514093028  
株式会社サウンドファン  
東京都港区新橋2-20-1 5新橋駅前ビル1号館4階

(74) 代理人 100139239  
弁理士 佐藤 公彦

(72) 発明者 佐藤 和則  
東京都港区新橋2-20-1 5新橋駅前ビル1号館4階

(72) 発明者 宮原 信弘  
東京都港区新橋2-20-1 5新橋駅前ビル1号館4階

(72) 発明者 松岡 健太郎  
東京都港区新橋2-20-1 5新橋駅前ビル1号館4階

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 万能スピーカ

発明者や出願人（権利者）情報  
※代理人は出願担当した弁理士のこと  
※続きは最終頁に記載

(57) 【特許請求の範囲】  
【請求項 1】  
平板状をした振動板と、入力された電気信号に応じて前記振動板を振動させるドライバユニットと、前記振動板と前記ドライバユニットとを収容する中空構造の筐体と、を少なくとも備え、  
前記筐体は、一面に開口部を有し、  
前記ドライバユニットは、前記振動板の面方向と同じ方向に駆動するように前記振動板の端縁部と当接し、かつ、前記筐体に固定して取り付けられ、  
前記振動板は、前記ドライバユニットが取り付けられた一端側から対向する他端側へ向かうにしたがって湾曲する曲面部を形成し、前記筐体の開口部を被覆するように配されていると共に、両側縁部が前記筐体に支持されている、  
ことを特徴とする万能スピーカ。  
【請求項 2】  
前記ドライバユニットは、ムービングマグネット方式のアクチュエータを備えていることを特徴とする請求項 1 に記載の万能スピーカ。  
【請求項 3】  
前記ドライバユニットは、ムービングコイル方式のアクチュエータを備えていることを特徴とする請求項 1 に記載の万能スピーカ。  
【請求項 4】  
前記振動板は、両側縁部が前記筐体に部分的に支持されていることを特徴とする請求項

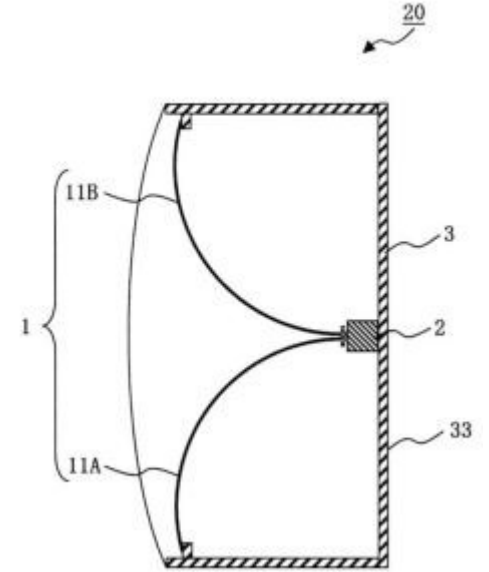
出願人が独占権を求める範囲

1 乃至 3 の何れか 1 項に記載の万能スピーカ。  
【請求項 5】  
前記振動板は、両側縁部が前記筐体に振動緩衝部材を介して支持されていることを特徴とする請求項 1 乃至 3 の何れか 1 項に記載の万能スピーカ。  
【請求項 6】  
前記ドライバユニットに前記振動板が複数取り付けられ、各振動板の素材又は曲げ角度が異なるものであることを特徴とする請求項 1 乃至 5 の何れか 1 項に記載の万能スピーカ。  
【請求項 7】  
前記振動板は、大きさがそれぞれ異なることを特徴とする請求項 6 に記載の万能スピーカ。  
【請求項 8】  
前記振動板の一端側に前記ドライバユニットが複数取り付けられていることを特徴とする請求項 1 乃至 7 の何れか 1 項に記載の万能スピーカ。  
【請求項 9】  
前記振動板の他端側にもさらに前記ドライバユニットが取り付けられていることを特徴とする請求項 1 乃至 7 の何れか 1 項に記載の万能スピーカ。  
【請求項 10】  
前記ドライバユニットは、何れか一方が圧電体を利用したアクチュエータを備えたものであることを特徴とする請求項 9 に記載の万能スピーカ。  
【請求項 11】  
前記電気信号を幾つかの周波数帯域に分割する手段をさらに備え、分割した各電気信号を互いに異なるドライバユニットにそれぞれ入力することを特徴とする請求項 9 又は 10 に記載の万能スピーカ。  
【請求項 12】  
前記振動板は、曲面部の曲げ角度が 90° 乃至 130° であることを特徴とする請求項 1 乃至 11 の何れか 1 項に記載の万能スピーカ。  
【請求項 13】  
前記振動板は、前記筐体の一部であることを特徴とする請求項 1 乃至 11 の何れか 1 項に記載の万能スピーカ。

【発明の詳細な説明】  
【技術分野】  
【0001】  
本発明は、聴聴者と健聴者とが共に聞き取ることができる万能スピーカに係り、詳しくは、聴聴者が補聴器をつけることなく健聴者と共に聞き取ることができる万能スピーカに関する。  
【背景技術】  
【0002】  
音は、物体の振動が空気などの物質の中を伝わってきたものであり、人間が耳という聴覚器官で感知できるものとされている。つまり、音は振動している物体から生じ、空気を媒介として音が伝わる場合、物体が振動することで近くの空気が押されてその部分だけ空気が濃くなり、空気の濃い部分が近くの空気をさらに押して空気の濃い部分が移っていくことで耳に届く。そして、耳に届いた空気が耳の中の鼓膜を振動させ、この振動の信号が脳に伝わり、脳が音として判断して音が聞こえるものとなる。  
【0003】  
このように音は、空気中の気体の分子が押されたり引かれたりして振れる方向、すなわち、進行方向と同じ向きに振れる縦波として進む。また、音が伝わるときには、空気の薄い部分（疎）と濃い部分が（密）が交互に波として伝わることで、この縦波は「疎密波（粗密波）」とも呼ばれている。

従来技術、課題、解決手段、作用効果、定義、測定方法、実施例、図面など発明の詳細

【図 13】



# 特許公報を読もう② 出願人／発明者から特許公報入手

**JSP** Japan Speaker

HOME  
製品一覧  
ご注文  
販売店一覧  
サポート  
会社案内  
リンク

**Only One Speaker**  
—歪まない重(超)低音—  
(all directions bass reflex system)

お買い合わせ

JSP方式スピーカー  
ニュース  
試聴評論記事  
自作へのヒント  
自作作品ご紹介

Made in Yokohama Japan

画像は、JSP-1010ALです

Copyright © 2004 JSP All rights reserved.

**JSP** Japan Speaker

HOME  
製品一覧  
ご注文  
販売店一覧  
サポート  
会社案内  
リンク

**会社案内**

社名	J S P 研究所 (jsplab)	「J S P 研究所」は、登録商標です。
	代表 木村芳紀	
事務所所在地	神奈川県横浜市青葉区奈良3丁目1-5	101
	〒227-0038	
	スピーカーエンクロージャーの制作は、全て外部発注 (旧 有限会社 木村製作所 音響開発部)	
電話	045-507-7363	
	携帯 090-9241-3304	
ホームページ	http://www.jsplab.jp/	
E-mail	jsparkimura@gmail.com	
	kimura@n03.itscom.net	



# 特許公報を読もう② 出願人／発明者から特許公報入手

特許・実用新案検索

ヘルプ

書誌的事項・要約・請求の範囲のキーワード、分類(F I・Fターム、I P C)等から、特許・実用新案公報、外国文献、非特許文献を検索できます。  
対象の文献種別や検索キーワードを入力してください。(検索のキーワード内は、スペース区切りでOR検索します。)  
分類情報については、[特許・実用新案分類協会\(PMGS\)](#)を参照ください。

選択入力

論理式入力

テキスト検索対象

☒ 和文 ☐ 英文

文献種別

詳細設定 +

☒ 国内文献 ☐ 外国文献 ☐ 非特許文献 ☐ J-GLOBAL

検索キーワード

検索項目

キーワード

出願人/権利者/著者所属

木村製作所

近傍検索

削除

AND

書誌的事項

例) インフルエンザ

近傍検索

削除

AND

発明・考案の名称/タイトル

例) 半導体記憶装置

近傍検索

削除

AND

要約/抄録

例) 組成物

近傍検索

削除

追加

除外キーワード 検索から除外するキーワードを指定します。

開く +

検索オプション

開く +

オプション指定: なし

検索

クリア

条件を論理式に展開

特許・実用新案検索

書誌的事項・要約・請求の範囲のキーワード、分類(F I・Fターム、I P C)等から、特許・実用新案公報、外国文献、非特許文献を検索できます。  
対象の文献種別や検索キーワードを入力してください。(検索のキーワード内は、スペース区切りでOR検索します。)  
分類情報については、[特許・実用新案分類協会\(PMGS\)](#)を参照ください。

選択入力

論理式入力

テキスト検索対象

☒ 和文 ☐ 英文

文献種別

詳細設定 +

☒ 国内文献 ☐ 外国文献 ☐ 非特許文献 ☐ J-GLOBAL

検索キーワード

検索項目

キーワード

発明者/考案者/著者

木村

近傍検索

削除

AND

発明者/考案者/著者

芳紀

近傍検索

削除

AND

発明・考案の名称/タイトル

例) 半導体記憶装置

近傍検索

削除

AND

要約/抄録

例) 組成物

近傍検索

削除

追加

除外キーワード 検索から除外するキーワードを指定します。

開く +

検索オプション

開く +

オプション指定: なし

検索

クリア

条件を論理式に展開

特許公報を読む② 出願人／発明者から特許公報入手

検索結果一覧

国内文献  
(56)

外国文献  
(-)

非特許文献  
(-)

検索一覧オプション

閉じる

公知年別： 全て | 2021年(1件) | 2016年(1件) | 2012年(1件) | 2009年(1件) | 2006年(1件) | 2005年(3件) | 2004年(1件) | 2003年(3件) | 2001年(1件) | 他(43件)

FI別： 全て | A47(17件) | F24(9件) | H01(7件) | G01(6件) | F23(5件) | A01(2件) | A22(2件) | B65(2件) | C02(2件) | E02(2件)

一覧画面の表示指定 ? : ☒ 最先公知優先 ☐ 公告・登録優先

文献表示画面の表示形式： ☒ テキスト表示 ☐ PDF表示

分類コードランギング

複数PDFダウンロード

一覧印刷

CSV出力

複数PDFダウンロードは、最大5案件まで選択できます。

No.	文献番号 ▲	出願番号 ▲	出願日 ▲	公知日 ●	発明の名称 ▲	出願人/権利者	FI	各種機能
1	<a href="#">特開2021-059861</a>	特願2019-183539	2019/10/04	2021/04/15	農機用/バケット	有限会社 木村製作所	<a href="#">E02F3/348</a> <a href="#">A01D43/06</a>	<div>経過情報</div> <div>OPD</div> <div>URL</div>
2	<a href="#">特開2016-113827</a>	特願2014-253816	2014/12/16	2016/06/23	バケット	有限会社 木村製作所	<a href="#">E02F3/43@M</a>	<div>経過情報</div> <div>OPD</div> <div>URL</div>
3	<a href="#">特開2012-019720</a>	特願2010-159081	2010/07/13	2012/02/02	農業用作業機	有限会社 木村製作所	<a href="#">A01B13/10</a>	<div>経過情報</div> <div>OPD</div> <div>URL</div>
4	<a href="#">実審3148484</a>	実願2008-007002	2008/10/06	2009/02/19	スピーカーボックス及びスピー カーシステム	木村 芳紀	<a href="#">H04R1/02,101@B</a>	<div>経過情報</div> <div>OPD</div> <div>URL</div>
5	<a href="#">特開2006-121591</a>	特願2004-309646	2004/10/25	2006/05/11	スピーカーボックス及びスピー カーシステム	有限会社 木村製作所	<a href="#">H04R1/02,101@B</a>	<div>経過情報</div> <div>OPD</div> <div>URL</div>
6	<a href="#">特開2005-324076</a>	特願2004-141810	2004/05/12	2005/11/24	汚泥脱水機及び汚泥凝集濃縮機	株式会社木村製作所	<a href="#">B01D35/20</a> <a href="#">C02F11/12@D</a> <a href="#">C02F11/14@A</a> 他	<div>経過情報</div> <div>OPD</div> <div>URL</div>

(19) 日本特許庁(JP)	(12) 登録実用新案公報(U)	(11) 実用新案登録番号 実用新案登録第3148484号 (01)48484
(46) 発行日 平成21年2月19日(2009.2.19)	(43) 登録日 平成21年1月28日(2009.1.28)	
(51) Int. Cl. H04R 1/02 (2006.01)	F 1 H04R 1/02 101B	
審査請求 未請求 請求書の数 2 O L (全 7 頁)		
(21) 出願番号 実願2008-7002(2008-7002)	(73) 実用新案権者 504397398	
(22) 出願日 平成20年10月6日(2008.10.6)	有限会社 木村製作所	
出願変更の表示 特願2004-309646(2004-309646)の発明	(74) 代理人 100096692	神奈川県横浜市青葉区松風台31-3
提出日 平成16年10月25日(2004.10.25)	弁理士 浅村 裕	
	(74) 代理人 100072040	
	弁理士 浅村 肇	
	(74) 代理人 100087217	
	弁理士 吉田 裕	
	(74) 代理人 100072822	
	弁理士 森 繁	
	(73) 実用新案権者 508318869	
	木村 芳紀	
	神奈川県横浜市青葉区あさひ台2-3-7	
	サンフォレスト3 1015号	
	最終頁に続く	

[54] 【考案の名称】 スピーカーボックス及びスピーカーシステム

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 スピーカー、特に小口径スピーカーの低音領域の出力を顕著に増強することができるスピーカーボックス及びスピーカーシステムを提供する。

【解決手段】 正方形の正面/パネル2及び背面/パネル4、並びにそれらを接続して隔壁を構成する4枚の側面/パネルよりなる箱体1で、正面/パネルの中央に設けられた1個のスピーカー取り付け用円孔と、そのスピーカー取り付け用円孔を取り巻くように等間隔で配置された4個の通気ダクト結合用円孔を設置する。上記通気ダクト結合用円孔のそれぞれには短管状の通気ダクト8を挿入し、結合し、かつスピーカー取り付け用円孔にスピーカーを取り付ける。

【選択図】 図2

(19) 日本特許庁(JP)	(12) 公開特許公報(A)	(11) 特許登録番号 特願2006-121591 (2006-121591A)
(43) 公開日 平成18年5月11日(2006.5.11)		
(51) Int. Cl. H04R 1/02 (2006.01)	F 1 H04R 1/02 101B	テーマコード (参考) 5D017
審査請求 未請求 請求書の数 4 O L (全 8 頁)		
(21) 出願番号 特願2004-309646(2004-309646)	(71) 出願人 504397398	
(22) 出願日 平成16年10月25日(2004.10.25)	有限会社 木村製作所	
	神奈川県横浜市青葉区松風台31-3	
	(74) 代理人 100096692	
	弁理士 浅村 裕	
	(74) 代理人 100072040	
	弁理士 浅村 肇	
	(74) 代理人 100087217	
	弁理士 吉田 裕	
	(74) 代理人 100072822	
	弁理士 森 繁	
	(74) 代理人 100070757	
	弁理士 青原 昌二	
	最終頁に続く	

[54] 【発明の名称】 スピーカーボックス及びスピーカーシステム

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 スピーカー、特に小口径スピーカーの低音領域の出力を顕著に増強することができるスピーカーボックス及びスピーカーシステムを提供する。

【解決手段】 スピーカーボックスは、正方形の正面/パネル及び背面/パネル、並びにそれらを接続して隔壁空間を構成する4枚の側面/パネルよりなる箱体で、正面/パネルの中央に設けられた1個のスピーカー取り付け用円孔と、そのスピーカー取り付け用円孔を取り巻くように等間隔で配置された4個の通気ダクト結合用円孔を有し、上記通気ダクト結合用円孔のそれぞれには短管状の通気ダクト8が挿入され、結合していることを特徴とする。このスピーカーボックスにおけるスピーカー取り付け用円孔にスピーカーを取り付けられているものが本発明のスピーカーシステムである。

【選択図】 図1

# 特許公報を読もう③ 特許分類から特許公報入手

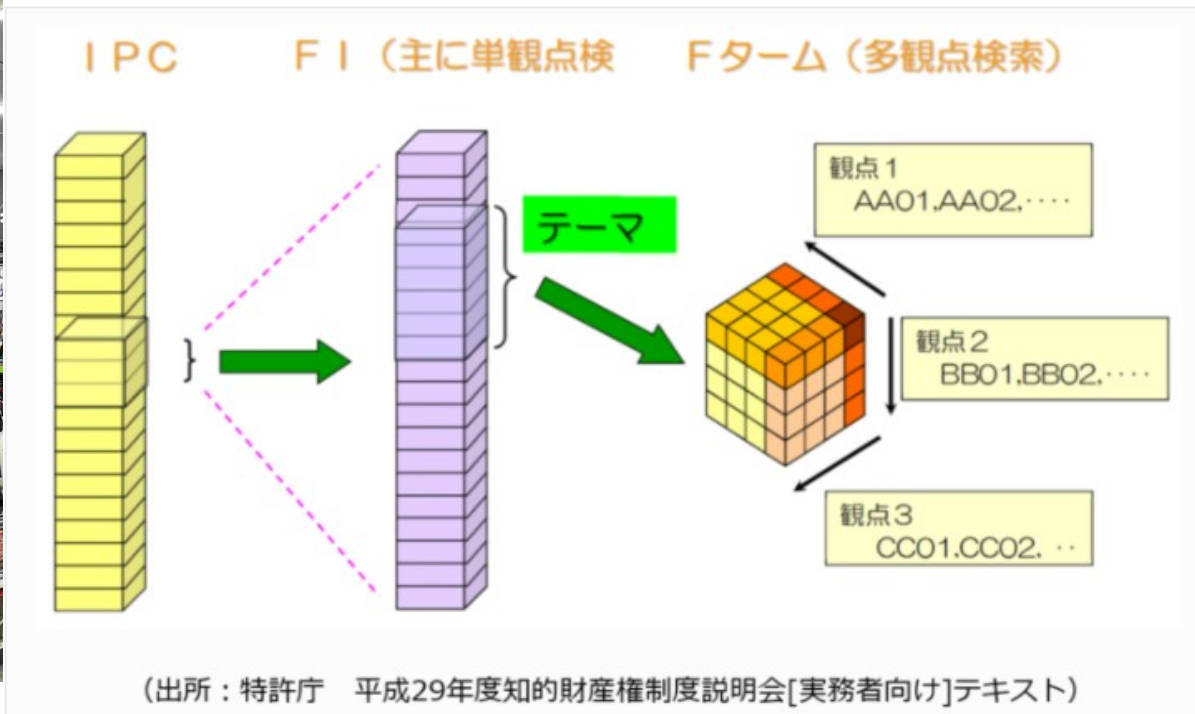
特許分類はホームセンターの吊看板のようなもの。  
吊看板が無いと、欲しい物（知りたい技術）を見つけ出すのが困難。



日本の特許公報には、3種類の特許分類が付与されている。

IPC FI Fターム

※このうち、FIとFタームは日本固有の特許分類。





# 特許公報を読む③ 特許分類から特許公報入手

Q 特許・実用新案分類照会(PMGS) [ヘルプ](#)

FI/Fターム、IPC（最新版）に対しキーワードから分類を検索できます。また、コードから分類を照会できます。コード照会から特許・実用新案検索へ分類をセットすることが可能です。

簡易表示（FI／ファセット簡易表示、Fターム簡易表示、IPC（最新版）簡易表示）は、分類を一覧したい場合や分類を印刷する場合に便利です。

・改廃情報に関しては、[FI改正情報](#)、[テーマ改廃情報](#)、[テーマコード表](#)、[IPC改正表](#)、[IPC指針](#)、[IPC旧版](#)を参照ください。

・分類関連情報に関しては、[パテントマップガイダンス（旧）情報](#)、[IPC分類表及び更新情報](#)、[CPC情報](#)、[WIPO-IPC](#)、[付加コードリスト](#)を参照ください。

コード照会    キーワード検索

検索対象

☒ FI/Fターム ☐ Fターム ☐ IPC（最新版）

[FI/Fターム簡易表示](#)   [Fターム簡易表示](#)   [IPC（最新版）簡易表示](#)

分類

例) B22F

照会

クリア

Q 分類表示 [ヘルプ](#)

FI ☒

[特実検索にセット](#)

追加

FI/Fターム	説明	参照等	テーマコード
<div>+</div> A	生活必需品		
<div>+</div> B	処理操作；運動		
<div>+</div> C	化学；冶金	<a href="#">C</a> (注)	
<div>+</div> D	繊維；紙	<a href="#">D</a> (注)	
<div>+</div> E	固定構造物		
<div>+</div> F	機械工学；照明；加熱；武器；爆破		
<div>+</div> G	物理学	<a href="#">G</a> (注)	
<div>+</div> H	電気	<a href="#">H</a> (注)	

交換器の細部（振動板H04R7/00；交換器の特性に特徴のあるものは、メイングループH04R9/00～H04R23/00の関連グループを参照；電話装置のために特に適合した変換器H04M1/02）	<div><div>ハンドブック</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
・スピーカ	<div><div>ハンドブック</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
ネットワーク（例：マルチウェイ、周波数帯を有するスピーカシステム）	<div><div>ハンドブック</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
防爆形スピーカ	<div><div><a href="#">H04R1/02</a></div><div>・ゲーシング；キャビネット；それらへの裏装（H04R1/28が優先）</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
放射形スピーカ	<div><div><a href="#">H04R1/02_101</a></div><div>・スピーカキャビネット、例：密閉箱、位相反転（パル</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
防振形スピーカ	<div><div><a href="#">H04R1/02_101@A</a></div><div>キャビネット材料に関するもの</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
音響・音量等を表示するもの（例：動電型スピーカ）	<div><div><a href="#">H04R1/02_101@B</a></div><div>バスレフ形キャビネット</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
壁移動スピーカ	<div><div><a href="#">H04R1/02_101@C</a></div><div>折り畳み形キャビネット</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
体感移動スピーカ	<div><div><a href="#">H04R1/02_101@D</a></div><div>容積調整形キャビネット</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
その他のもの	<div><div><a href="#">H04R1/02_101@E</a></div><div>吸音材とその取付けに関するもの</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
・・・防水構造（例：スピーカ用防水カバー、防露、防	<div><div><a href="#">H04R1/02_101@E</a></div><div>板体の結合・強度補強・振動防止に関するもの</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
・・・骨格等を利用したもの	<div><div><a href="#">H04R1/02_101@G</a></div><div>スピーカフレーム・ホーン等をキャビネットと一体に形成したもの</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
・・・支持台または吊り掛け具	<div><div><a href="#">H04R1/02_101@Z</a></div><div>その他のもの</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
支持部・支持台（例：スピーカの支持台）	<div><div><a href="#">H04R1/02_102</a></div><div>・・・特定のものに適合されたスピーカケース、例：ラジオ受信機の放音部、天井スピーカ</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
壁面への取付具	<div><div><a href="#">H04R1/02_102@A</a></div><div>天井用</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
支柱	<div><div><a href="#">H04R1/02_102@B</a></div><div>車間用（例：重載用スピーカユニット）</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
	<div><div><a href="#">H04R1/02_102@Z</a></div><div>その他のもの（例：テレビジョン用、ラジオ用）</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
	<div><div><a href="#">H04R1/02_103</a></div><div>・・・他の機器と組み合わされて用いられるもの、例：ピロスピーカ、録音スピーカ</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>
	<div><div><a href="#">H04R1/02_103@A</a></div><div>裝飾品・玩具類との組合せ</div><div>コンコードダンス</div></div>	<a href="#">SD017</a>

特許分類（FI）

特許分類の説明

FIに対応するFターム

# 特許公報を読む③ 特許分類から特許公報入手

特許・実用新案検索

14

Fターム

追加

検索キーワードのハイライトされている文字列:

SD017

テーマコード	SD017	解説
説明	可聴帯域変換器の細部 I (僅付等) (カテゴリ: 音響システム)	
FI適用範囲	H04R1/00-1/00,328@Z;1/02-1/02,108;1/04-1/06,320;1/08;1/12-1/14;1/42-1/44,320;1/46	

リスト印刷

☐ AA00 スピーカーの細部一般 I

☐ AB00 スピーカーの細部一般 I I

☐ AC00 スピーカーの細部一般 I I I

☐ AD00 スピーカーキャビネット

☐ AD01 ・キャビネット材料

☐ AD02 ・木質材料

☐ AD03 ・無機質材料

☐ AD04 ・合成樹脂材料

☐ AD05 ・金属材料

☐ AD11 ・バスレフ形キャビネット

☐ AD12 ・ダクト形

☐ AD13 ・・・折曲げダクト

☐ AD14 ・・・マルチパイプダクト

☐ AD15 ・・・調節形ダクト

☐ AD16 ・・ラビリンス形

☐ AD17 ・・バックロードホーン形

☐ AD19 ・折畳形キャビネット

☐ AD20 ・容積調整形キャビネット

☐ AD21 ・吸音材の取付構造

☐ AD22 ・・キャビネット内壁に取付けるもの

☐ AD23 ・・キャビネット空間に充填するもの

☐ AD24 ・・スピーカー背面に配置するもの

☐ AD31 ・キャビネットの組立・補強

☐ AD32 ・・板体の結合構造

☐ AD33 ・・板体の折曲げ構造

☐ AD34 ・・補強構造

☐ AD36 ・フレーム一体形キャビネット

☐ AD40 ・その他

特許検索にセッ

書誌的事項・要約・請求の範囲のキーワード、分類(FI・Fターム、IPC)等から、特許・実用新案公報、外国文献、非特許文献を検索できます。

対象の文献種別や検索キーワードを入力してください。(検索のキーワード内は、スペース区切りでOR検索します。)

分類情報については、[特許・実用新案分類協会\(PMGS\)](#)を参照ください。

選択入力

論理式入力

テキスト検索対象

☒ 和文 ☐ 英文

文献種別

詳細設定 +

☒ 国内文献

☐ 外国文献

☐ 非特許文献

☐ J-GLOBAL

検索キーワード

検索項目

キーワード

Fターム

SD017AD17

削除

AND

書誌的事項

例) インフルエンザ

近傍検索

削除

AND

発明・考案の名称/タイトル

例) 半導体記憶装置

近傍検索

削除

AND

要約/抄録

例) 組成物

近傍検索

削除

追加

除外キーワード 検索から除外するキーワードを指定します。

開く +

検索オプション

開く +

オプション指定: なし

検索

クリア

条件を論理式に展開



特許公報を読む③ 特許分類から特許公報入手

検索結果一覧

国内文献  
(113)

外国文献  
(-)

非特許文献  
(-)

検索一覧オプション

閉じる

公開年別 : 全て | 2021年(4件) | 2020年(4件) | 2019年(3件) | 2018年(2件) | 2017年(4件) | 2016年(2件) | 2014年(1件) | 2013年(2件) | 2012年(4件) | 他(87件)

F1別 : 全て | H04(113件) | G10(4件) | B60(3件) | A47(1件) | A63(1件) | B62(1件) | G03(1件) | H05(1件)

一覧画面の表示指定 : ☒ 最先公開優先 ☐ 公告・登録優先

文献表示画面の表示形式 : ☒ テキスト表示 ☐ PDF表示

複数PDFダウンロードは、最大5案件まで選択できます。

No.	文献番号 ▲	出願番号 ▲	出願日 ▲	公開日 ●	発明の名称 ▲	出願人/権利者	F1	各種機能
<input type="checkbox"/> 1	<a href="#">特開2021-136608</a>	特願2020-032211	2020/02/27	2021/09/13	音出力装置	シャープ株式会社	H04R1/02.101@B H04R1/28.310@Z H04R1/00.318@Z	<a href="#">経過情報</a> <a href="#">OPD</a> <a href="#">URL</a>
<input type="checkbox"/> 2	<a href="#">特開2021-111794</a>	特願2020-000038	2020/01/05	2021/08/02	バックロードホーン型スピーカ ー装置	前田 真司	H04R1/02.101@B H04R1/30@A H04R1/26	<a href="#">経過情報</a> <a href="#">OPD</a> <a href="#">URL</a>
<input type="checkbox"/> 3	<a href="#">特開2021-052368</a>	特願2019-186351	2019/09/20	2021/04/01	共鳴管スピーカ装置	寺崎 啓行	H04R1/28.310@Z H04R1/02.101@B H04R1/02.101@G	<a href="#">経過情報</a> <a href="#">OPD</a> <a href="#">URL</a>
<input type="checkbox"/> 4	<a href="#">特開2021-036660</a>	特願2019-226728	2019/12/16	2021/03/04	エンクロージャ、スピーカシ ステム及びそれらの製造方法	株式会社 Living A nywhere Gara ge	H04R1/02.101@B H04R1/30@A	<a href="#">経過情報</a> <a href="#">OPD</a> <a href="#">URL</a>
<input type="checkbox"/> 5	<a href="#">特開2020-202546</a>	特願2019-117869	2019/06/07	2020/12/17	S型リヤロードホーンスピーカ キャビネット	ユートピア機器株式会社	H04R1/02.101@B H04R1/02.101@G H04R1/28.310@B	<a href="#">経過情報</a> <a href="#">OPD</a> <a href="#">URL</a>
<input type="checkbox"/> 6	<a href="#">特開2020-195133</a>	特願2020-089265	2020/05/22	2020/12/03	バックロードホーン型スピーカ ボックスの製造方法およびバック ロードホーン型スピーカボッ クス	株式会社金山精機製作所	H04R1/02.101@B H04R1/02.101@G H04R1/30@A	<a href="#">経過情報</a> <a href="#">OPD</a> <a href="#">URL</a>

(19) 日本国特許庁(JP)	(12) 公開特許公報(A)	(11) 特許出願公開番号 特開2019-92128 (P2019-92128A)
(43) 公開日 令和1年6月13日(2019.6.13)		
(51) Int.Cl. H04R 1/02 (2006.01) H04R 1/30 (2006.01)	F I H04R 1/02 H04R 1/30	I O I B A テーマコード (参考) 5D017 5D018
審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 39 頁)		
(21) 出願番号 (22) 出願日	特願2017-221379 (P2017-221379) 平成29年11月17日(2017.11.17)	(71) 出願人 717007114 前田 真司 京都府京都市伏見区羽東師菱川町569番 地1 デイオ・フェルティ向日東502号 (72) 発明者 前田 真司 京都府京都市伏見区羽東師菱川町569番 地1 デイオ・フェルティ向日東502号 Fターム(参考) 5D017 AD17 5D018 AE17

(54) 【発明の名称】マルチバックロードホーン型スピーカ装置

(57) 【要約】 (修正有)  
【課題】 アンプ側で電気的に行うイコライザ機能を、簡易な構成であるが、物理的な構造体であるスピーカ装置のエンクロージャ側で行い、音響特性を高めたマルチバックロードホーン型スピーカ装置を提供する。  
【解決手段】 マルチバックロードホーン型スピーカ装置1は、スピーカユニット11と、エンクロージャ13と、マルチバックロードホーン15とで構成される。マルチバックロードホーン15は、少なくとも3本のバックロードホーンで構成される。バックロードホーンは、複数本の音導管151a~151cを直列や並列に接続して構成される。空気室S13とバックロードホーンとの連通部には、絞り部を備える。絞り部の面積を変えることによって、音圧レベルを調整できる。かかる構成とすることにより、少なくとも3本のバックロードホーンについて、最低共振周波数と音圧レベルとを、それぞれ個別に調整できる。  
【選択図】 図1

